

## 愛読している『楽しいわが家』

酒井 董美<sup>ただよし</sup>

『楽しいわが家』9月号表紙

むことにしている。

ところで、同協会のホームページによれば、次のように本誌を紹介している。

「各界の専門執筆陣により、随筆、コラム、詩、地域情報、民話、マンガ、生活メモや料理など、生活に潤いを与える情報を幅広く提供しています。／かさばらないA5サイズで、待ち時間やバス・電車の中でも気軽に読めます。／小さいのに読みごたえ十分の内容です。」……。先に筆者の感じた表現が、そう違っていなかったことがこれで理解いただけたであろう。

この全国信用金庫協会は第二次世界大戦後の昭和20年(1945年)11月1日に設立されているが、この9月号を見ると第71巻9号とあるので、創刊されたのは昭和27年という長い歴史を持つということが分かる。原則として全国の信用金庫の店頭に置かれ、希望者に配布されているという。筆者も長年の愛読者の一人なのである。

これだけの歴史であるから、掲載記事にも決まったものがあり、読者を楽しませてくれている。表紙裏にはカラー写真と解説で「世界遺産」がある。次のページには下4分の1に目次。その上は「心のチャンネル」としてエッセイが爽やかである。他の定番記事は、「海かぜ山かぜ」(ふるさと短信)2ページ(以下の数字はページ数を示す)、「ホームジャーナル」(3)、「お父さんの気持ち」(1)、「お役に立てば」(1)、「小さな暮らしの足跡」(1)、「テレビ彩時記」(2)、「よしなしごと」(1)、「バンドラの匣」(1)、「日本の民話」(3)、「えとじのたまごとじ(漫画)」(1)、「ことばの窓」(1, 5)、「うたつて楽しく」(0, 5)、「わが家の本だな」(2)、「雲子の詩帖から」(1)、「ホームサイエンス」(1弱)、「介護」(1)、「ギリシャ神話」(1)、「堀江さんちの○○料理」(2)、「歴史のなかのお金の話」(1, 5)、「読者のページ」(1, 5)……と、なかなか盛り沢山なのに驚かされる。

筆者の立場では、「日本の民話」には関心が深く、井出文蔵氏のイラストも楽しみで、欠かさず愛読しているが、編集者も筆者を知ってくださっており、実は平成12年を皮切りにこれまで16話(島根8話、鳥取8話)を筆者は提供しており、近くまた寄稿の予定である。民話以外でもエッセイも3回寄稿した。いつしか『楽しいわが家』と筆者とは、切っても切れない関係になっているのである。